

ハンドブック
ワンポイント
レッスン

知っておきたい規則とルール

Question

高校でソフトテニスの部活をしています。先日観戦したインドアー大会での出来事で判定について教えていただきたいので質問します。

ラリー中に、プレーヤーAがツイストボールを打球して、それを追って前進した相手プレーヤーCは、ボールに追いつき上手く返球し、ポイントとなりました。しかし、走ってきた勢いでそのまま斜めに走り抜け、ネットポストの外側を通り過ぎて相手方アウトコートに入ってしまった。

正審はプレーヤーCがネットの仮想延長線を越えたので、「ネットオーバー」とコールしてプレーヤーCのペアの失ポイントとしました。するとプレーヤーCから今のは打球の惰性で相手方アウトコートに入ってしまったのだから有効返球のはずであると質問が出て中断してしまいました。私は他のコートの応援に移動してしまいましたので、結果はどうなったか判らないので教えてください。

Answer

インプレー中、打球の惰性でラケット、身体、着衣などが一部でもネットを越えたり、ネットポストの外側を、ネットの仮想延長線を越えて相手方アウトコートに入っても明らかな打球妨害（インターフェア）にならない場合は反則とならない事になっている。打球の惰性でなくこの状況となった場合は「ネットオーバー」となる。

今回の質問は、ツイストされたボールを前に走って来て打球した勢いでそのままネットポストの外側を斜めに走り抜け、相手方のアウトコートに入ることが問題になっています。

判定は「ネットオーバー」となり、その判定に有効返球ではないかとの質問が出ました。正審は、打球の惰性でネットポストの外側を通って相手方のアウトコートに入ったことでネットオーバーと判定しています。ここで問題になるのは、一つ目は打球の惰性であること。二つ目は、打球妨害になったかどうか判定の分かれ目になります。一つ目の「ネットオーバー」についての関係条文は競技規則第35条（インプレーにおける失ポイント）第5号を適用すると「ラケット、身体又は着衣が、次のいずれかに該当した場合。ただし、打球の惰性でラケットがネットを越えた場合、及び

相手方アウトコートに触れても明らかな打球妨害（インターフェア）にならない場合を除く。」ア「空振りしてラケットがネットを越えた場合、及びネット（仮想延長線を含む）又はネットポストを越えた場合（ネットオーバー）」となっています。

二つ目の、打球の惰性（ボールを打った後の勢い）で相手方アウトコートに入ってしまった場合は明らかな打球妨害（インターフェア）にならないければ「ネットオーバー」にはならないとなっています。結論は、正審の判定は「ネットオーバー」ですが、打球妨害になっていないならば、罰則は有りません。そうするとプレーヤーCから質問があった有効返球で処理することが正しい事になりますね。正審は質問を受け入れ「コレクション」で、プレーヤーCペアのポイントと判定することになります。

今後判定を下す時に注意しなければならない事

は、ハンドブックのどの条文に該当するか、条文に説明があればその前後を確認する習慣をつけてください。特に「ただし」書きの部分には注意をしましょう。

【関連規則】

競技規則第35条（インプレーにおける失ポイント）

第1項、第5号、ア、12号

ジュニア審判マニュアル

競技規則について

11. ポイントを失うのはどんなときか？ (5)、(17)



ネットの仮想延長線を超えて
相手側アウトコートに入ったのだから
ネットオーバーを取るのだろうか??

